**ⅩⅡ　研究部**

１　目標

○　スクールワイドＰＢＳにもとづいた教育実践を行うことを通して、児童の行動上の問題を減少させ、学びの土台となる落ち着いた学校生活につなげるとともに、支援の必要な児童への階層的な支援体制の構築を図る。

２　努力事項

　○　職員研修（主題研究）を充実させ、スクールワイドＰＢＳにもとづいた教育実践に全職員で取り組む。

３　主題研究の実際

　(1)　研究主題及び副題

|  |
| --- |
| **「ハッピーな学校づくり」の実現に向けて**  **～スクールワイドPBSにもとづいた教育実践を通して～** |

(2)　研究主題設定の理由

○　今日の教育の動向・課題から

　 今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい

挑戦の時代を迎えていると予測される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術の

革新により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測困難な時代となっている。2020年度から完全実施された新学習指導要領では、そのような中であっても、主体的に向き合い、広い視野をもって、自分の人生を切り拓いていけるような力を身に付けていくことを重視し、それらを実現させるために必要とされる資質や能力を育み、「社会に開かれた教育課程」を実現することを示している。学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組んだり、協働的な学びによって自己の考えを深めたり、情報を精査して考えを形成し新しいものを想像したりすることが必要になってくる。「社会に開かれた教育課程」の下でこれからの時代に求められる資質・能力を育むためには、子どもたちが自分の価値を認識し、かつ、他者の価値も尊重することができるよう指導をしていかなければならない。また、子どもたちが自信をもって成長し、よりよい社会の担い手となることができるよう、そのための環境づくりをしていく必要がある。

　研究主題にあるスクールワイドＰＢＳは、「望ましい行動を育てる」という発想のもと、学校の実情や課題等を踏まえて場面ごとに行動目標を設定し、学校全体ですべての児童を対象に取り組む組織的アプローチである。対象はすべての児童であり、望ましい行動を効果的に教えること、その行動ができた際に賞賛や承認をすること、そして適切に行動しやすい環境を整えることで、望ましい行動を学ぶことができるとされている。また、スクールワイドＰＢＳは、第１層支援から第３層支援へと階層的で連続的な支援システムを設けている。第１層支援を充実させることによって個別性の高い第２層支援や第３層支援を真に必要とする児童を絞り込むことが可能となり、教員の時間や労力が限られている状況に置いて、より的確な支援を行うことが可能である。

○　本校の教育目標から

　　本校では、学校の教育目標に「心豊かに知性をみがき、郷土を愛するたくましい子どもの育成」を掲げ、「すすんで勉強する子ども」「元気よく活動する子ども」「なかよく助け合う子ども」を「めざす児童像」にもつ。これら学校の教育目標、児童像を踏まえ、職員全体の合意にもとづいた「行動マトリクス」を作成し、学校全体でこどもたちへのポジティブな行動支援（スクールワイドＰＢＳ）に取り組んでいく。学校全体でのポジティブな行動支援（スクールワイドＰＢＳ）に取り組む（第一層支援）段階でも、行動上の問題の減少が見られない場合については、既存の校内支援体制（生徒指導部・特別支援教育部）を生かして、組織的に第二層支援、第三層支援に取り組んでいく。

○　学校の実態から

　 本校は、令和２年度より「みやざきの発達障がい教育推進事業」の「学校の特別支援教育力向上事業」のうち、「スクールワイドＰＢＳ実践支援校訪問」に２年間指定された。令和２年度の研究では、スクールワイドＰＢＳの考え方を教職員に浸透させ、すべての児童を対象とした第１層支援に力を入れ、主に三点の取組を行ってきた。一点目は、教職員の、スクールワイドＰＢＳについての理解の浸透である。専門家を招聘し、応用行動分析学にもとづく支援、スクールワイドＰＢＳについての理論研修を行った。二点目は、行動マトリクスの作成である。全教職員がグループに分かれて学校の課題や児童に付けたい力について話し合い、合意のある共通の行動目標（マトリクス）を作成した。三点目は、行動マトリクスの項目のうち、特に意識をして取り組む項目についてキャンペーン活動を行った。キャンペーン期間中は、ポジティブな行動支援を一層意識して行うとともに、スライドを使った教示などに取り組んだ。令和３年度からは、第一層支援のさらなる充実を図るため、委員会活動を活用したPBSの取組を加え、各委員会のＰＢＳにつながる実践をほり起こし、データに基づく児童への行動支援やフィードバックの工夫を行った。また新たに第２・３層支援に取り組み、問題行動記録シートへの記入、第２・３層支援のフローの作成及びフローに基づいた対応、第２・３層支援対象児童の学年会などの時間設定を行い組織的で階層的な支援体制のシステム作りに努めた。

○　児童の実態から

　 本校は、新富町の中心部に位置し、各学年３～４学級からなる大規模校である。全体的には、授業中の学習態度も家庭学習も良好ではある。標準学力検査（CRT）の結果は、国語・算数ともに全学年においてほぼ全国平均である。しかし行動上の問題を抱える児童も少なくなく、暴言・私語・授業妨害や指導への不従事といった学級崩壊につながりかねない状況が見られることも少なくない。また、月１回開かれる生徒指導上の問題や特別支援対象の児童として挙げられる児童は増加傾向にあり、２０名以上の児童について検討をしている状況がある。

○ 上記の理由により、スクールワイドＰＢＳにもとづいて、児童の行動上の問題を減少させ、児童のよさを認める環境づくりや、学びの土台となる落ち着いた学校生活につなげるとともに、支援の必要な児童への階層的な支援体制の構築を図っていく。それにより学校の教育目標である「心豊かに知性をみがき、郷土を愛するたくましい子どもの育成」の実現及び、につながると考え、本主題を設定した。

本年度の研究は、令和２年度から、スクールワイドＰＢＳにもとづいた教育実践に取り組んできたことを生かして、第１層支援のさらなる充実を図るとともに、現在の校内支援体制を生かして、組織的かつ階層的に第２、第３層支援を充実させていくこととした。

(3) 研究の目標

○　スクールワイドＰＢＳにもとづいた教育実践を行うことを通して、児童の行動上の問題を減少させ、学びの土台となる落ち着いた学校生活につなげるとともに、支援の必要な児童への組織的で階層的な支援体制の構築を図る。

(4) 研究仮説

　〇　スクールワイドＰＢＳにもとづいた教育実践を行い、すべての児童を対象に組織的に教育実践を行うことで、児童の行動上の問題は減少し、落ち着いた学校生活につながるであろう。また、真に支援の必要な児童へのより的確な指導を行うことができるであろう。

(5)　研究内容

○　第１層支援の充実

・行動目標の設定と共有（マトリクスの作成）

・年間３回のキャンペーンの実施

・委員会活動を活用したＰＢＳの取組

　・ＰＢＳの視点を授業に生かす取組

○　第２層支援、第３層支援への取組

　 ・第２・３層支援に当てはまる児童の実態把握シートの活用

　　　　・第２・３層支援対応フローの見直し

・第２層支援、第３層支援対象児童の学年会の実施

(6)　研究組織

**校長・教頭**

**企画会**【校長・教頭・主幹教諭・研究主任】

研究の方向性、内容の検討・修正・確認

**研究部**

研究計画・内容の検討全体研究会への具体的な提案

**全体研究会**

(7)　研究の全体構想

学校の教育目標

心豊かに知性をみがき、郷土を愛するたくましい子どもの育成

目指す児童像

進んで勉強する子ども

なかよく助け合う子ども

元気よく活動する子ども

研究主題

**「ハッピーな学校づくり」の実現に向けて**

**～スクールワイドPBSにもとづいた教育実践を通して～**

研究の目標

スクールワイドＰＢＳにもとづいた教育実践を行うことを通して、児童の行動上の問題を減少させ、学びの土台となる落ち着いた学校生活につなげるとともに、支援の必要な児童への階層的な支援体制の構築を図る。

研究内容

○　第１層支援の充実

・行動目標の設定と共有（マトリクスの作成）

・年間３回のキャンペーンの実施

・委員会活動を活用したＰＢＳの取組

　・ＰＢＳの視点を授業に生かす取組

○　第２層支援、第３層支援への取組

　 ・第２・３層支援に当てはまる児童の実態把握シートの活用

　　　　・第２・３層支援対応フローの見直し

・第２層支援、第３層支援対象児童の学年会の実施

研究・実践

研究で目指す学校像・教師像・児童像

学校の現状・目標等を職員・児童が常に意識している活気のある学校

児童の望ましい行動を育てるという発想のもと、ポジティブな行動支援を行う教師

行動目標の内容を理解し、適切に行動しやすい環境の中で望ましい行動（社会性）を学ぶ児童

(8)　研究計画

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **回** | **月日** | **主な内容** | | |
| 【第１層支援】 | 【第２・３層支援】 | |
| 1 | 4/12  （80分） | ・R２・３年度の研究について  ・本年度の研究の方向性について | | |
| 2 | 5/18  （80分） | ・行動マトリクスの作成（各部に分かれて） | |  |
| 3 | 5/25  （30分） | ・行動マトリクスの周知  ・月目標及びキャンペーンの決定 | |  |
| 4 | 6/1  （80分） | ・６月キャンペーンの提案  ・委員会活動を活用したPBSの内容検討（各委員会） | | ・実態把握シートの提案  ・フローの提案 |
| 5 | 6/22  （80分） | ・PBSの視点を授業に生かす取組の提案 | | ・学年会の実施 |
|  | 夏季休業中 | ・PBSの視点を授業に生かす取組 | |  |
| 6 | 8/31  （80分） | ・行動マトリクスの活用  ・PBSの視点を授業に生かす取組 | |  |
| 7 | 9/14  （80分） | ・PBSの視点を授業に生かす取組 | | ・学年会の実施 |
| 8 | 9/21  （30分） |  | | ・第２・３層支援実践事例提供 |
| 9 | 10/26  （80分） | ・11月キャンペーンの提案 | | ・学年会の実施 |
| 10 | 11/16  （80分） | ・PBSの視点を授業に生かす取組 | | ・学年会の実施 |
| 11 | 12/21  （80分） | ・２学期までの研究の協議・反省 | | |
|  | 冬季休業中 | ・１月キャンペーンの提案 | |  |
| 12 | 1/11  （80分） | ・行動マトリクスの活用  ・PBSの視点を授業に生かす取組 | |  |
| 13 | 2/1  （80分） | ・PBSの視点を授業に生かす取組 | |  |
| 14 | 2/22  （80分） | ・研究のまとめ及び次年度の研究についての協議・検討 | | |